

## 南ア月報

(2010年11月)

在南アフリカ日本国大使館

### 1. 内政関連

#### ●州政府レベルの内閣改造相次ぐ

10月末の南ア政府内閣改造を受けて、地方レベルでも内閣改造が相次いだ。2日にはハウテン州、3日にはムプマランガ州、25日には北西州、27日には東ケープ州がそれぞれ内閣改造を発表した。東ケープ州のDA（民主連合・野党）は、同州における内閣改造を、サービス向上に資するものではなく単なる派閥政治の動向でしかないと批判した。

#### ●ツワネ市長、北西州首相の交代

2日、コシエンツォ・ラモコパ氏がツワネ行政区の新市長に就任した。同市長は、グウェン・ラモコパ前ツワネ市長の甥にあたる。また、19日には、タンディ・モディセANC副事務局長が北西州の新首相に就任した。

#### ●ANC・IFP間の和解いまだ遠く

7日、かつてANCとIFPが武力抗争を展開したクワズールー・ナタール州において、両党の代表が招かれ和解式典が開催された。式典にはANCからはズマ大統領等が出席したものの、IFP側は、和解に必要な責任と変革の意思がANC側にないとして出席を拒否、ANC側の出席を選挙向けパフォーマンスであると批判した。なお、IFPは、式典に先立ち行われた同州首相主催のミーティングに代表を送ったが、ANCからは代表を送らなかった。

#### ●議会各種ポートフォリオ委員会議長の交代

18日、ANCは南ア議会の各種ポートフォリオ委員会議長の大規模な交代を発表した。これにより15のポートフォリオ委員会が新しい議長を迎えたほか、ANC議会コーカスおよび議院議長もそれぞれ交代した。交代した議長職の幾つかは、先般の内閣改造で副大臣に任命された委員会議長の席を埋めるものであるが、情報公開をめぐるシスル国防大臣と衝突してきたこととの関連が指摘されるプーイ国防委員会議長の交代などの例もある。

#### ●青年・学生の祭典に対する批判

18日、DAは、青年・学生による反帝国主義の祭典を12月に主催するために全国青年開発局に2900万ランドの予算が割り当てられたことに強く抗議した。これまで北朝鮮等の抑圧的国家で開催されてきた祭典の性質、および理事63人中62人がANC青年同盟のメンバーである同局の性質を問題視しており、21日にはDA青年部の同祭典への参加を見合わせることを発表。かかる強い批判を受けて、29日に同局は費用の削減のためとして開催場所をプレトリア大学からツワネ・イベント・センターに変更した。

#### ●COSATU「ヌジマンデSACP党首は閣外に出るべき」

25日、ヴァヴィ COSATU（南ア労働組合）事務局長は、同中央執行委員会の席にて、ヌジマンデSACP（南ア共産党）党首は、高等教育・訓練大臣の職を辞して、SACP党首として

の職務に専念すべきであると発言した。ANC、COSATU、SAPCの3者同盟の間には、決定的な亀裂はないものの、たびたび緊張が垣間見える。

## **2. 外政関連**

### **●ズマ大統領、ナミビアおよびタンザニア訪問**

4日、ズマ大統領は、ナミビアを公式訪問した。ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣、デーヴィス貿易・産業大臣、ジョーマト＝ピーターソン農業・森林・漁業大臣、ピーターズ・エネルギー大臣、ンデベレ運輸大臣、ヴァン・シャルクヴァイク観光大臣、パンドール技術大臣、シャバング鉱物資源大臣が同行した。ズマ大統領は、ポハンバ大統領との会談を行った後、第11回国間経済首脳会合を主催した。

6日、ズマ大統領は、キクウェテ大統領の就任式に出席するためタンザニアを訪問した。ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣等が同行した。

### **●ズマ大統領、韓国でのG20に出席**

10－13日、ズマ大統領は韓国を訪問し、11－12日開催のG20サミットに出席した。ゴードン財務大臣等が同行した。ズマ大統領は、G20サミットおよび右に併せて開催された国連ミレニアム開発目標フォーラムにてスピーチを行った。

### **●習近平中国国家副主席、南ア訪問**

16－19日、習近平中国国家副主席が南アを訪問した。習副主席は、16日にモトランテ副大統領と会談したほか、17日には同副大統領とともに第4回南ア中国両国委員会会合の共同議長を務め、同会合の締め括りに共同声明を発表した。また、17日にはスル国民議会議長およびズマ大統領への表敬を行った。

### **●ズマ大統領、ボツワナでのSADC首脳会合出席およびジンバブエ訪問**

19－20日、ズマ大統領は、SADC首脳会合に出席するため、ボツワナを訪問した。同会合ではマダガスカル情勢、SADC諸国におけるインフラ開発および経済統合につき話し合われた。ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣等が同行した。

26日、ズマ大統領は、ジンバブエを訪問し、ムガベ大統領、チャンギライ首相、ムタンバラ副首相と会談を行った。ズマ大統領の仲介により、MDC側が重要ポストの要求を引き下げる代わりに、ムガベ大統領が公正な選挙のための環境作りを行う等の合意が形成された。なお、上述のSADC会合にて予定されていたSADCトロイカによる協議は、トロイカのうちズマ大統領以外の2名（バンダ・ザンビア大統領およびゲブーザ・モザンビーク大統領）が欠席したため行われなかった。

### **●モトランテ副大統領、ケニア訪問**

24日、モトランテ副大統領はケニアを訪問し、ムショカ・ケニア副大統領と会談し両国関係や東アフリカ情勢につき協議した。デーヴィス貿易・産業大臣、ジョーマト＝ピーターソン農業・森林・漁業大臣等が同行した。

### **●ズマ大統領、リビアでの第3回アフリカEUサミット出席**

29－30日、ズマ大統領は、第3回アフリカEUサミットに出席するためリビアを訪問した。ズマ大統領は、農業および食糧安全保障に関するMDG（サブ・テーマ3）に関するスピーチを行った。ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣、デーヴィス貿易・産

業大臣等が同行した。

### **3. 経済関連**

#### **●経済成長**

南ア統計局によると、南アの GDP 成長率は第 2 四半期の 2.8%から、第 3 四半期に 2.6%へと失速した。経済成長の悪化は工場生産高の後退と、ランド高による輸出産業の競争力の弱体化によるもの。第 3 四半期の成長率は 3.2%程度と予測されていた。

#### **●インフレ**

南ア統計局によると、10 月消費者物価指数の上昇率は前年同月比 3.4%と、9 月の 3.2%から上昇し、予測より早く増加に転じた。これにより、さらなる金利カットの機会は減った。インフレターゲットである 3~6%の底値を下回することはなさそうである。

#### **●自動車販売**

南ア統計局より、新車販売台数は 10 月に前年同月比 22.2%増の 44,055 台に達した。自動車産業の先行きは、金利カットと低インフレにより安定してきた。Investec 銀行グループは価格上昇、高債務水準と貧弱な消費者信用記録により、自動車需要が妨げられていると指摘している。

#### **●自動車産業**

GM 南アフリカは来年早々にも、いすゞのピックアップ・トラック Isuzu KB のサブ・サハラアフリカへの輸出増加を図っていく考えを表明した。これはこれから導入される自動車産業奨励策 APDP のインセンティブを受けられる基準となる年間 5 万台以上の生産を目指すためのものである。11 月に南アを訪れたいすゞ自動車会長は「アフリカは重要な新興市場であり、いすゞブランドが伸びる機会を秘めている」と述べた。

#### **●小売り業**

小売り販売は消費の伸び悩みが予測されるなか、9 月に前年同月比で 6.1%増、前月比で 0.4%増と好転した。

なお、各労働組合は米国ウォルマートによる南ア・マスマート社購入に対して反対キャンペーンを開始した。労組の一つ、SACCAWU は南ア製品の調達水準の保証を求め、もしそれが達成できないならばストライキに出ることを表明した。

#### **●新しい成長の道**

パテル経済開発大臣は、11 月 23 日に「新しい成長の道」という経済政策文書を公表した。同文書は賃金上昇、ランドの弱体化、黒人経済力強化政策の見直し、競争政策の強化を含んでいる。同文書はインフラ、農業、鉱業、グリーン・エコノミー、製造業、旅行業、政府関連での雇用創出を目指している。

### **4. 広報・文化**

#### **●日・南ア交流 100 周年イベント**

5 日から 21 日の週末に、プレトリア、ケープタウン、ヨハネスブルグにおいて第 17 回日本映画祭が開催され、約 1600 名が来場した。上映作品は「時をかける少女」、「半落ち」、「か

もめ食堂」、「金融破滅ニッポン・桃源郷の人々」、「サイドカーに犬」の5本。5日にプレトリアで開催されたオープニング・レセプションでは南アフリカ文化芸術省のルイス・グラハム国際関係総局長が挨拶し、「日本映画祭をはじめとする様々な100周年イベントは、当国国民の対日理解を促進させ、両国の更なる友好関係発展に大きく貢献した」と述べた。プレトリア及びヨハネスブルグでは日本食をテーマとする「かもめ食堂」上映後におにぎりが観客に提供され、ケープタウンでは元JETプログラム参加者（日本の小中高校での英語補助教師経験者）による写真展及び南ア人師範・生徒による空手・剣道デモンストレーションが日本映画祭に併せて開催された。

25日から28日には、ヨハネスブルグにおいて南アフリカ合気道連盟による合気道セミナーが開催された。日本及びグアムより久保田師範（7段）、峰岸師範（7段）が南アフリカを訪問し、南ア各地から約60名の合気道家が同セミナーに参加した。

日・南ア交流年ホームページ：

[http://www.za.emb-japan.go.jp/jp/events/Event\\_calendar\\_jp.pdf](http://www.za.emb-japan.go.jp/jp/events/Event_calendar_jp.pdf)

### ●ヌグバネ元駐日大使の親授式参加

我が国政府は、3日付で、ボールドウィン・シポ・ヌグバネSABC会長（元駐日大使）に対し、日・南ア関係強化および両国間の科学技術協力推進の功績を称えて、旭日大綬章を授与することが発表された。ヌグバネ会長は、5日、皇居にて親授式に出席し、天皇陛下より勲章を親授された。

## 5. 警備・治安

先月号にて、南アにおける犯罪の特徴としては、犯人らが銃器や刃物を用いて武装した上、強盗、傷害、強姦等の犯行を敢行することが多いと記述したが、11月中も銃器を使用した犯罪報道が相当数見受けられたため、そのいくつかを以下に挙げる。

●11月2日 ハウテン州 ワットビルの老人ホームに警察官に扮装した6人の強盗が現金を奪い逃走した。犯人はサイレンを鳴らした警察車両2台で同施設敷地に侵入し、入り口の警備員に施設運用の調査と伝え建物に入った。建物内の警備員は拳銃とR5で脅され、その間に現金が奪われた。犯行は計画的で、施設に高齢者の年金が輸送された直後だった。南ア警察は、犯人グループに本物の警官が含まれていた可能性があるとして公表した。

●11月4日の早朝、ヨハネスブルグ南方のドウデュールの民家に、武装した3人組が押し入り、テレビ、ホームシアターシステム、携帯電話などを奪って逃走した。家の主人と、その兄弟一人が銃弾を受け病院に運ばれたが、命に別状は無かった。犯人はいまだに逃走中である。

●11月7日昼頃、ヨハネスブルグ市内にて自動車泥棒二人組が運転する盗難車両を警察車両が追走したところ、犯人が車から降り警察官に発砲した為、警察官も応戦し、犯人一人を射殺した。もう一名は後から逮捕された。

●11月10日午前8時15分頃、サントン地区のリボニア・ロードで車両泥棒と警察官が銃撃戦となり、犯人一名が射殺され、2名が車両盗難、銃器不法所持の容疑で逮捕された。犯人が暗い駐車場で懐中電灯、スパナ等を取り出したのを不審に思った警備員が警察に通報し、臨場した警察車両が犯人車両を追走し、銃撃戦となった。

● 11月13日午後11時頃、ケープタウンから10キロほど離れたタウンシップ、ググルツで、ハネムーンで南アに訪れていたインド系英国人夫婦を乗せたタクシーがカージャックに遭い、妻が殺害された。

夫婦は夕食後、夜のタウンシップ見学の為タクシーで移動していたところ、銃を武装した二人組の男に信号待ちで襲われた。タクシーのドライバーと夫は先に車から降ろされ、妻のみが連れ去られたが、翌日早朝、現場付近でタクシーの後部座席に銃弾を受けた妻の遺体が見つかった。犯人と予想される3人の男が逮捕されたが、南ア警察は英国人の夫も犯人の一味の可能性もあるとして捜査を進めている。

●また、銃器犯罪ではないが、11月30日午後1時頃、ヨハネスブルグ市内にて邦人の男性旅行者が路上強盗に遭い、パスポート、キャッシュカード等が強奪される事件も発生している。男性はヨハネスブルグ駅前を歩いていたところ、2人組の犯人に、後ろから首を絞められたため、気を失ってしまった間に犯罪に遭った。